

聖心女子大学 2016 (平成 28) 年度 一般入試 (総合小論文方式) 問題

問1 資料1を読み、下線部(「この「女であること」「男であること」はわれわれが考えている以上に個人の生き方や行動を拘束しているのです。女であること、男であることによって、社会制度上の待遇が異なり、諸制度の中での位置づけが違います。)」で述べられていることの具体的内容を筆者がどう説明しているかを、200字以内で簡潔に記述しなさい。

問2 資料2(英文)の下線部を和訳しなさい。

In countries like the Czech Republic, Hungary, Japan, Korea and the Slovak Republic, a more traditional profile is observed, as mothers find it more difficult to combine work with family commitments.

問3 資料3は、文部科学省が2005年に実施した「家庭教育についての国際比較調査」のうち、子育ての父母の分担に関する調査結果の一部である。これらのグラフから読み取れることを、200字以内で説明しなさい。

問4 資料4の下線部にある、「ジェンダー平等をめざす動きは、これを単色の社会にしようというのではない。むしろ、二色刷から多色刷りへと転換していくことが求められているのだ。」という指摘の意味するところを、資料1から資料3の内容にもふれながら600字以上、800字以下で説明しなさい。

【配点】

問1・問2・問3：合計150点、問4：150点、総計：300点。

【出典】

資料1 白波瀬佐和子『生き方の不平等—お互いさまの社会に向けて』岩波新書、2010年、106-146頁。

資料2 OECD, *Closing the Gender Gap: Act Now*, OECD publishing, 2012, p. 157.

資料3 牧野カツコ・渡辺秀樹・船橋恵子・中野洋恵(編著)『国際比較にみる世界の家族と子育て』ミネルヴァ書房、2010年、31頁。

資料4 伊藤公雄「社会学とジェンダー論の視点」、伊藤公雄・牟田和恵(編)『ジェンダーで学ぶ社会学[全訂新版]』世界思想社、2015年、11-17頁。